# 10 年後の自分自身を助けるために

**マツダ株式会社　長尾　志**
**（2018 年卒　佐藤研究室）**

私は広島県にある自動車メーカー・マツダ株式会社で量産開発部門に所属し、数年後に世の中に出るクルマのエンジン部品設計を担当しています。クルマは人の命を預かる機械なので、広い視野で様々なことを考え、万全の状態で量産します。苦しみながらも開発が一歩前に進むと、それはもうとても気持ちがいいです。

入社後 8 年経ってよく感じるのは、学生時代の過ごし方への後悔です。これを読んだ人が学問や研究に心から本気で取り組めるようになってくだされば幸いです。

**エンジニア主体のキッズ教室（筆者）**

世間でも言われますが、自動車会社は変革期にいることを最近よく感じます。クルマの設計をしていると言っても、クルマの知識がほとんどない人も大抵の業務を行うことはできます。（それは 100 年以上も積み上げられた技術をまとめた業務手順書があるからこそなので、先人たちの苦労が今に繋がっているのだと感じられます。）ですが、最近はこの手順書をもってしても、「あれ？何かおかしいな。」と立ち止まってしまうシーンが増えてきました。立ち止まるシーンが増えれば、当然時間もかかってしまうので納期に対して余裕がなくなります。しかし様々な理由で全体の開発日程は短期化され、従来以上に開発に割ける時間が少なくなっています。

分からないことは増える一方で、ますます厳しい納期が設けられるので、素早く状況を理解し、一の情報から十の結論を語らないといけないときが本当に多いです。自分の持っている知識や考え方を総動員して（時には周りの協力を得ながら）日々悪戦苦闘しています。そんな私がいつも感じるのは、大学（院）時代にもっと授業内容を腹落ちしておけば良かったな、同僚の研究に興味を持って理解を深めておけば良かったな、ということです。

日々求められる結論は電気的な話だったり、熱力学的な話だったりと多岐に渡ります。大学時代は自分なりに真面目に授業を受け、自身の研究もしっかりと取り組みました。しかし会社生活でいつもつまずいて時間をかけてしまうのは、「苦手だから…」「将来使わないから…」と決めつけ、腹落ちせぬまま卒業した学問や同僚の研究に類似する内容のときです。「あのとき同期の研究をしっかり理解しておけば…」などといつも思っています。

**関わったクルマが世に出るととても嬉しいです！**

社会に出てエンジニアになると、想定外の分野の知識（でも確実に習ったことのある知識）を問われるタイミングが必ず来ます。また、そもそも将来何の仕事をするかも分かりません。自身の研究分野、興味のある学問だけでなく、同僚の研究分野や将来使わないと思っている学問こそ、腹落ちするまで理解に努めてみてほしいです。早稲田大学で学べることは間違いなく最先端なので、10 年後の自分を助けるために本気で大学を活用し尽くしてください。心から応援しています。